

くろぐみだより

第12号 平成25年10月31日

あれ?という間に12号、のくろぐみだより。さて、今回はいろいろアウカルトにお伝えいたします。

小学校いろいろあります (副園長)

幼稚園を卒園すると、次は小学校に入学となります。そりゃそうだ、という話なんですが。

多くの子は、そこで地元の市立小学校に入学すると思います。それを、「当たり前」と思っているおうちの方も多いのではないのでしょうか?

しかし、ちょっと考えてみてください。

幼稚園を選ぶときも、「家から近いから」という理由だけで選んだ方は、けっこう少ないのではないのでしょうか?

ただ、市立小・中学校では、居住地で通学する学校が決められています。実際に住んでいない他学区の市立小中学校へ入学することは、原則として、できません。

でも、実は、岡崎には、地元の小学校以外にも入学可能な小学校があるのです。(というか、岡崎に住んでいないと入れない!)

それが、愛知教育大学附属岡崎小学校、通称、附属小です。

<http://www.op.aichi-edu.ac.jp/>

*入学資格は、入学時および在学中に、岡崎市内に保護者とともに居住していることです。この基準は、かなり厳しく審査されます!

*他にも、特別支援学校として、愛知県立岡崎盲学校、岡崎聾学校、岡崎養護学校、みあい養護学校、愛知教育大学附属特別支援学校があります。



別に、附属小学校を強く勧めます!というわけではないんですけども、せっかく市立学校以外にも選択肢があるのに、検討もしないじゃ、もったいないんじゃない??と思いますので、今回は附属小学校のことを皆さんにお知らせしたいと思います。

はじめから除外するのではなく、すこし検討してみましよう!

附属小学校ってどんなところ?

附属小学校は、「国立大学附属学校」として、「教育実践校」です。

つまりどんなことをするかというと、「これから」の教育をどのように行っていくか、という、新しい教育の実践研究をしているわけですね。だから、通常の市立学校ではやらないような教育「も」やっている、というわけです。

あと、特徴としては、「制服がある」「公共交通機関で通う」「給食を学校で作っている」といったところでしょうか…?

ただ、そういった特徴から、いろいろ誤解されることも多いようです。

そのあたりは、僕自身が毎年学校公開に行っていて、附属小学校の先生にもいろいろ質問して聞いていますので、誤解を受けやすい部分などを以下にピックアップしてみたいと思います。

授業料が高い?…授業料は、市立校と同じく「無料」です。他、月々にかかるお金で、市立校より高くなるのは、給食代・教材費などをあわせて「1000~2000円程度」だそうです。

制服代は?…市立校にはない、いわゆるあの登校時に着ている制服は、「男子上着+ズボン」もしくは「女子ジャンパースカート+ブラウス」で15000円程度です。その他にかかる制服代は体操服等、市立校とそれほど変わらないと思います。なおランドセルは指定のもので29000円です。

交通費は?…例えば、あさひこ幼稚園から通う場合、通学バス定期代が「細川町~能見町」1ヶ月で7890円。3ヶ月定期なら5%OFF、6ヶ月定期なら10%OFFとなります。もちろん長期休みの定期代は不要です。

寄付金を取られる?…寄付金のような制度はありますが、月々200円からの「任意」です。

他の小学校で習うことを習わない?…「教育実践校」として、公私立小学校で適用される「学習指導要領」を超えた範囲の授業を行うことはありますが、それは「学習指導要領」の範囲を行わなくていい、というわけではありません。市立校と同じように学習します。というか、しなくてははいけません。ただし、学習指導要領を超えた範囲の授業をする分、学習指導要領の範囲にかける時間が少なかったり、内容は同じでも授業方法が違ったりといった違いはあるでしょう。(文科省の定める指導範囲・時間はきちんと守られます)

でも、教科書使わないんでしょ?…上記のような、「教育実践」として行われる研究的な授業は、担任の先生が専門とする教科「だけ」です。国語の先生なら国語だけ。その他の授業は、市立学校とほぼ同じように進みます。そして、研究教科においても、すべてを独自プログラムで行うわけではなく、市立小学校のように教科書も使っています。

塾に通わないといけない?…上記の理由により、基本的には必要ないということです。なので、「附属小で塾に通わせている方は、きっと市立校でも塾に通わせる方なんじゃないですかねえ」だそうです。ちなみに雄志(附属小卒業生)は通っていませんでしたが、この程度には育ちました。

お受験は大変?…受験対策というようなものは全く必要ありません。そもそも附属小の試験は学力を試験するものではありません。あさひこでは、進学希望者向けに面接練習を一回だけやります。

地元学校を離れて、友達ができるかな?…子どもは柔軟です。新しい友達ができるでしょう。僕もその頃の友人といまだにつきあっています。

通っているのは、お金持ちや社会的地位の高い方?…そんなことはありません。いろんな人がいます。気にする必要は全然ありません。

と、そんな感じです。

以下は、僕の主観を含みますが…附属小の一番の特徴は、「教えてもらう」ことより、「自分から学ぶ」「考える」「話し合う」ということを重視していることです。授業を見ていても、いわゆる一方的に教えてもらう授業もありますが、多くの授業で、意見を言ったり、友達の話の聞いたり、自分で工夫したり、試したり、という活動をしています。それは、実際に授業を受けた身として、また現在教育者として授業を見て、「あさひこの」だな、と思います。「生きる力を育む」、という意味においてです。

もちろん、一長一短があります。地元小学校のよさも、もちろんあるでしょう。でも、小学校は市立、と決め付けなくてもいいのではないのでしょうか?大切なお子さんの個性を鑑みて、一度、附属も検討してみてもいいかもしれませんよ!?

もし興味があれば、詳細を園におたずねいただいてもかまいませんし、11月9日(土)の午前には学校公開・授業参観を含む入学説明会もあります。そちらの手紙も配布しますので、興味のある方は、ぜひどうぞ。

うんてい棒の天才おせるさんが仲間になりました!! (牧原東吾)

10月16日から新しい仲間がやってきました。玄関から職員室に上がってくる階段の踊り場の展示スペースに、ジャングルの樹間をブラキエーション(うんてい棒のように枝から枝へぶらさがって移動)するポーズをしたフクロテナガザル(別名シャマン)の彫刻(木彫)です。

サルは大きくモンキー(monkey)とエイブ(ape、類人猿)に分かれ、エイブは人間に極めて近い動物ですが、フクロテナガザルもエイブです。彼らはジャングルの樹間を枝から枝へすばらしい正確さとスピード(3手先まで瞬時に判断しながら)で“うんてい移動”することが出来ます。この能力で、「廊下は走らない、右側通行」というルールのないあさひこ幼稚園の園児たちが、ひらりひらりと友だちと身をかわしながら園内を走り回っているのときと同じ遺伝子のはずです。

この彫刻の作者は日展会員の彫刻家、亀淵元昭先生。亀淵さんはサルをモチーフに人間や自然を表現するために、園長はサルを知ることによって幼児教育の原点を見つけるために、ともに日本モンキーセンターの『モンキーカレッジ』という講座に通い続けています。サルを求めてボルネオにも、地獄谷にも、居酒屋にも一緒に仲です。上記の園の子どもの話題もお話したことがあります。今ではすっかり“サル友”です。

そんなある日、名鉄百貨店の催事場で開催された亀淵さんの個展にお邪魔した折、僕の目は「あ、ここにあさひこの子どもたちの原点がある」と、この作品に釘付けになってしまいました。欲しくなりました。でも無理、売値は7桁。

「0を一個とってくれたらナァ…」と亀淵さんにつぶやいてみました。

すると、亀淵さん曰く、「そんなん、いいよ。そんな子どもたちと一緒にこの子も幸せだから」。

なんと、無償で園に置いていただけることになったのです。

皆さん、お子さんと遺伝子つながりの彼をよろしく。

